

令和 7 年度マスタースクラブ講演会(東海)報告

演題：地方公設試験所ではなにをしているか、共同研究から

講師：村瀬由明氏 (元)名古屋市工業研究所

令和 7 年度マスタースクラブ講演会(東海)を、令和 8 年 1 月 22 日(木)、東海支部役員会終了後に東海支部後援のもと開催しました。参加者は、対面 14 名、オンライン 6 名でした。

講師は東海支部所属で、元名古屋市工業研究所(市工研)に勤務されていた村瀬由明氏です。毎年 12 月初めには界面科学実践講座(基礎と応用)が開催されますが、その会場として市工研を使用させていただくことが多く、村瀬氏には会場確保をはじめ、東海支部のさまざまな業務をご担当いただいています。

村瀬氏は名古屋工業大学(名工大)大学院修士課程修了後、4 年間の民間企業勤務を経て市工研に転職され、約 40 年間奉職されました。筆者が名工大に着任して以来、同窓会活動を通じて交流があり、有機化学をご専門とされていることは承知していましたが、市工研での業務内容について詳しく知ったのは今回が初めてでした。

産官学それぞれの分野には研究設備や分析設備がありますが、必ずしもすべてが十分に整っているわけではありません。大学(学)では学生を育てることが主な役目ですが、市工研は官としての地方公設試験研究機関であり、地場産業を支えるための技術指導や測定依頼の対応が重要であることを教えていただきました。また、さまざまな研究会に参加してニーズを探ったり、自らプラズマ応用に関する研究会を立ち上げて交流の場を作り、問題があれば関係者とともに考えるといった、多岐にわたる業務を担われていたことも伺いました。

特に村瀬氏は企業や大学の研究者と協働し、特許取得という成果を挙げるなど、非常に充実した活動をされていたように思います。共同研究の製品化はその代表例です。しかし、すべてが順調というわけではなく、苦労を重ねた時期もあったとのこと、子育てと同じく長い目で取り組んでこられたご様子が印象的でした。加えて、リユース・リサイクル、プラズマ放電技術による水の浄化など多方面で活躍されていたことにも驚かされました。

最後の質疑応答では、「もっと頻繁に村瀬氏の業務内容を紹介してほしかった。そうすれば、さらに相談できることが増えたのではないか」との意見が寄せられました。官の立場上、中途半端な段階では共同研究先企業の事情もあり発表が難しい場合があるとの説明もありましたが、参加者一同、同じような感想を抱いたようでした。

ところで、村瀬氏のご趣味はフルート演奏で、奥様はソプラノ声楽家という音楽一家でもあります。筆者が第 48 回油化学年会を名工大で担当した際には、懇親会で奥様に美声をご披露いただきました。また村瀬氏は現在、名工大応用化学科同窓会(緑会)の会長も務めておられます。今後ますますのご活躍を祈念し、MC 講演会(東海)の開催報告とさせていただきます。

マスタースクラブ(東海)多賀 圭次郎

